

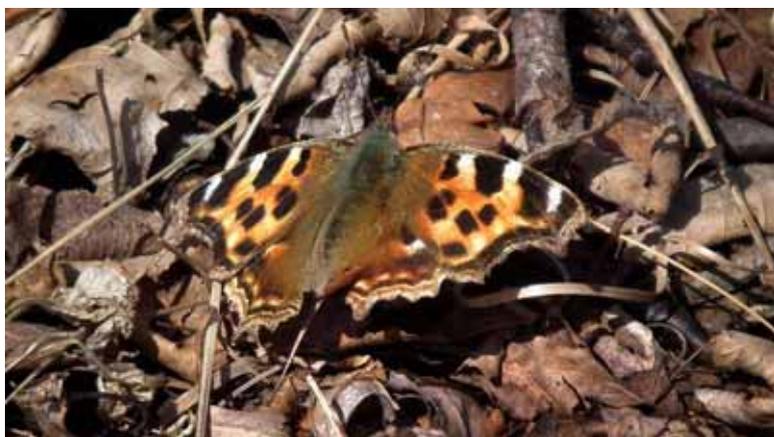
月刊 やちまなこ

2012.4.15 発行

No. 173

4 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



雪の残る湿原からエゾアカガエルの鳴き声が聞こえた。今年は雪解けも遅く、例年ほとんど氷の消えた湖には長旅を控えたオオハクチョウたちの数も少ないようだ。

付近の林ではネコヤナギ、フキノトウ、フクジュソウなど、春の御三家が揃い、季節の訪れを告げているが、そんな地面にはまるで金時豆のようなエゾシカのフンが無数にあり、陽射しを受けて輝いていた。

コッタロ川と湿原のほとりから

142 4月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

遅い春の目覚めです。待望の女神の前に立ちはだかった冬神様は、時ならぬ爆弾低気圧に連れ戻され居座り続けた為、本日(10日)迄 - 8 ~ - 2 の朝を迎えております。例年の2倍以上の積雪が半減しつつあった矢先での自然災害をもろに被った丹頂3番は、営巣中の湿原で立ち往生。見る間に湖と化して川との区別もつかず巣ごと流され万事休す！それでも野生の底力・翌朝から早速交尾をやり直し現在に至っておりますよ。

一方で予想だにできなかった珍事発生。洪水であちこちに忽然と現れた「池」に渡り途中の大ヒシクイ3羽が舞降り、続く草地へとくり出して“雪中散歩”を楽しんでいるではありませんか。こういう雪をこいで行く後姿はとってもユーモラスでしょう？



渡り鳥と云えば十数年ぶりの御無沙汰が祟って判別しかねていた大タカをタカ博士(森岡照明氏)にピタリと鑑定して頂き目からウロコ。“合点承知のスケ”と相成った一枚を御覧下さい。

ところで庭に来る野鳥の数もずい分減って、屋敷林内では賑やかな『恋の季節』の始まりですが、そこではまたひそかに営巣中のエゾ福郎がいて、エサのネズミ探しに余念がありません。

さて、根雪で真っ白の庭では、辛うじて春スキーが出来るのに気をよくして、重ねた今季のクロカンスキーは130日を記録しました。もうそろそろ打ち止めか~?と見れば、冬毛の美しさも未だ消え失せぬおしゃれギツネのキャンシーが、野鳥用に拵えた脂身に、いざ食らいつこうと身構えた一瞬のすごみをパチリ。目も爪も鋭く、しなやかで強靱な体の持ち主は獣の中の「けもの」と云えましょう。

遅々として進まぬ雪解けに“おのづから膨るる大地百千鳥=村越化石”の季節が待たれるコッタロです。



湿原の住人たち その133

雪が消えた地面からようやく顔を出し始めたバイケイソウ（写真左）は、わずか3カ月で茎がぐんぐん伸びて約1.5mの高さにまで生長し、6月中旬には沢山の花を咲かせます。アイヌ語では「シクブ・キナ」（成長する・草）といい、春早く元気にすくすくと伸びていくことによるそう

バイケイソウ



です。和名の梅蕙草は花が梅に、葉がケイランに似ることからついたそうですが、ランの仲間ではなく葉が似ているタチギボウシと同じユリの仲間です。

センター周辺の湿った草原や林内に群落をつくっているにもかかわらず、エゾシカたちは見向きもせず？に他の草木を食べるのは、きっとこの草が有毒と知っているのでしょうか。

< 釧路湿原の航空写真展 > 好評開催中（～4/26）

レクチャールームの床一面に9m×7m、縮尺5000分の1の巨大空撮写真を展示しています。釧路湿原をかかえる釧路市、釧路町、鶴居村、標茶町の市街地が写っているので近隣にお住まいの方は、実際に写真の上を歩いて自宅や学校を探することができます。写真を見ながら釧路湿原の広さを体感したり、原始の森を開拓して



草地や道路に変えていった地域の歴史を読み取ったり、それぞれの視点で楽しめますのでこの機会にぜひご覧ください。茅沼地区の釧路川蛇行復元場所。

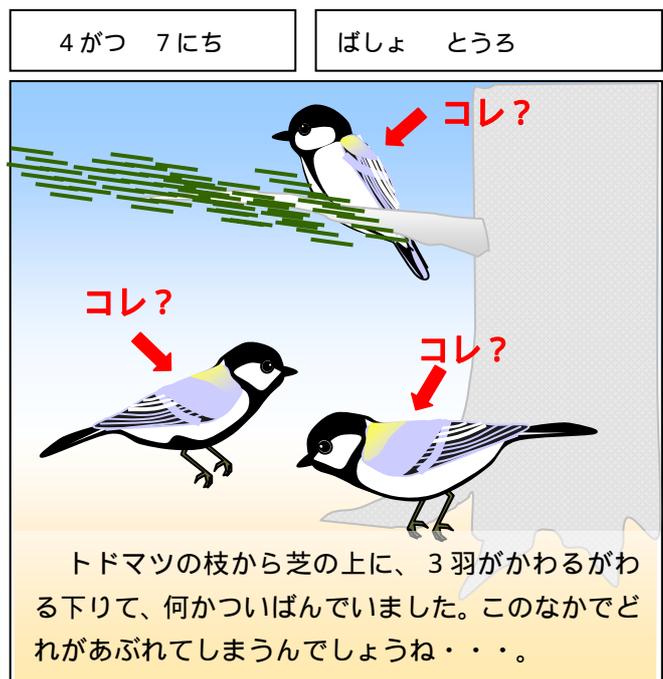
ネムネムのとうろうろう日記 Vol.36 「シジュウカラに見る、学生時代のグループ行動」

春ですね。シジュウカラの鳴き声を聞いていると、群れはまだ存在しているようにも感じますが、冬に比べて少数単位になり、お互い距離を置いているようです。繁殖期になると、群れの結束が次第に緩やかになって、「つがい」で行動するようになる、ちょうどその途中なのでしょう。その様子を見ていて、学生時代のグループ行動を思い出しました。

サークルやクラス単位で出かけたとき。しばらくすると、なんとなく全体の動きから遅れがち、離れがちのペアが出てきて。声をかければ返事はするけれど、2人とも皆の輪に入っていない。そして2人がお互いに見せる態度と、周囲に対する態度が変わってきて「ああ、2人は付き合っているのね。」と気がつき、以来なんとなく遠慮して距離が出来た、なんてこと学生時代はよくありました。

あれはシジュウカラでいう「繁殖期に入って群れが崩壊し、つがいが形成される様子」だったのかと思いあたり、人間も鳥も変わらないなあ、と妙に納得してしまいました。

辻 ねむ（標茶町郷土館学芸員）



4・5月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

春のバードウォッチング

- [日時] 4/22 (日) 10:00~12:00
- [定員・参加料] 15名、無料
- [場所] シラルトロ湖・蝶の森周辺
- [持ち物] あれば双眼鏡。コース状況によって長靴。

釧路湿原の野鳥たち

- [日時] 5/12 (土) 10:00~12:00
- [定員・参加料] 15名、無料
- [場所] シラルトロ湖・蝶の森周辺
- [持ち物] あれば双眼鏡。

標茶町郷土館企画展「アイヌの昔話展」4/28(土)~5/6(日)レクチャールーム

問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

春の湿原ハイク [日時] 5/13(日) 10:00~12:00

申し込み 問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(3/28)フクジュソウ (3/30)フキノトウ (4/9)バイケイソウの芽
【鳥】(3/16)ツグミ・オオワシ・モズ・タンチョウの番い (3/20)ヒシクイ・オオハクチョウ・カワアイサ・マガモ
(3/22)コロニーに座っているアオサギ (3/23)オジロワシ・ヨシガモ (3/26)ベニマシコ (3/30)キンクロハジロ・
ミコアイサ (4/1)枝を加えたアオサギ (4/7)ムクドリ・ノスリ・カワラヒワの声 (4/9)ヤマゲラ・ホオジロガモ
(4/13)シメ・アカゲラのドラミング・セイタカシギ・ハクセキレイ (4/14)アオサギの卵の殻・キジバトの声
【その他】(3/20)キタキツネ (3/27)エゾタヌキの死骸 (4/10)クジャクチョウ・エゾアカガエルの鳴き声

雪解けも始まり、草木の芽も顔を出すころとなりました。ゴールデンウィークも近づき郊外へと足を延ばす機会も増えてきますが、この時期は空気も乾燥して野火も起こりやすいので火の取り扱いには注意してください。

日出・日入時間 4/15(4:41, 18:05) . 4/30(4:18, 18:22) . 5/14(4:00, 18:38)



誰が運んだの？アオサギの卵 (EMC裏4/14)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00~17:00 (11月~3月は16:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日~1月3日 入館無料